

病理診断受託業務の効率化を支援する



病理診断入力支援システム



■ 病理診断入力支援システムとは・・・

病理診断の委託を受け、診断入力、診断レポート作成支援を行い、診断情報として依頼元へ返却します。依頼情報(依頼書スキャン情報、病理材料のマクロ写真、切り出し図)のデータ連携から、診断入力、進捗状況の確認、診断レポート作成まで一連の機能をご提供致します。

■ こんなことでお困りではありませんか？

課題

- 病理診断の受託で、紙での運用を実施している。
 - ・ 診断結果報告で、依頼情報、診断結果、シューマ図等を紙運用しており秘密保持が大変。
 - ・ 医学専門用語でのスペル間違いや、記載事項を確認することが難しい。
 - ・ 診断時に撮影した組織画像を資料化するために紙印刷を行っている。

解決

効果

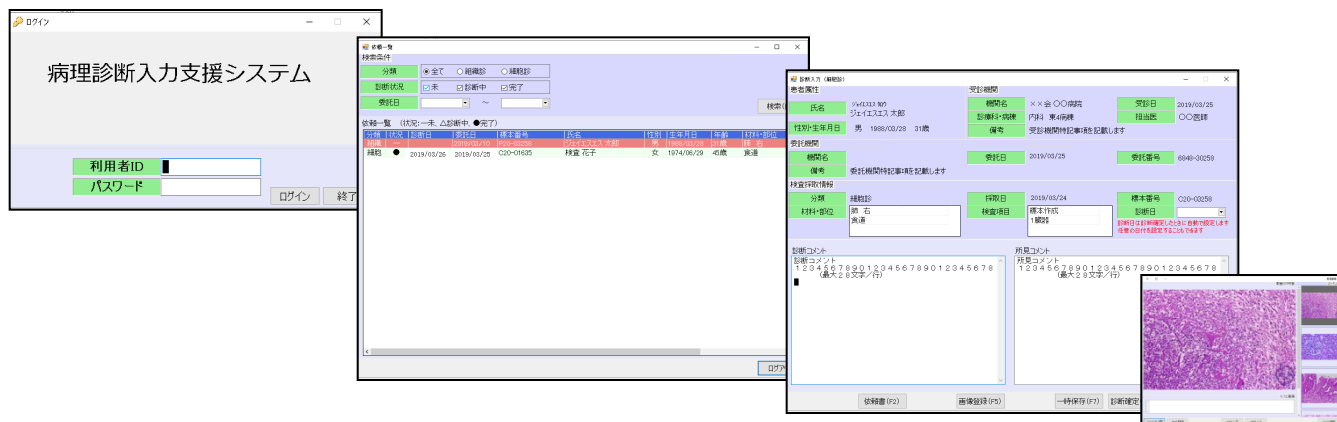
- 病理診断の受託をシステム化(デジタル化)し、ペーパーレス化を推進
 - ・ 依頼元の依頼情報、診断結果情報を全てデータ化し、暗号化による秘密保持を実現。
 - ・ 診断内容の入力定型化による診断情報記述精度の向上、辞書機能利用による誤字脱字の防止。
 - ・ 診断結果報告で、撮影した組織画像をデータとして添付が可能。

■ システムの特徴

- ◆ 病理診断時、依頼情報(切り出し図等)の参照を診断入力と同時にでき、入力作業の効率化が図れます。
- ◆ 診断レポートの作成時に、診断時に撮影した組織画像を付加することができます。
- ◆ 進捗状況照会機能により、全体の作業状況確認でき作業漏れを防ぐことができます。
- ◆ 診断結果の抽出機能により、診断データを標準フォーマットとしてデータ連携可能です。
- ◆ 標本撮影用カメラとのファイル(JPEG)連携が可能です。

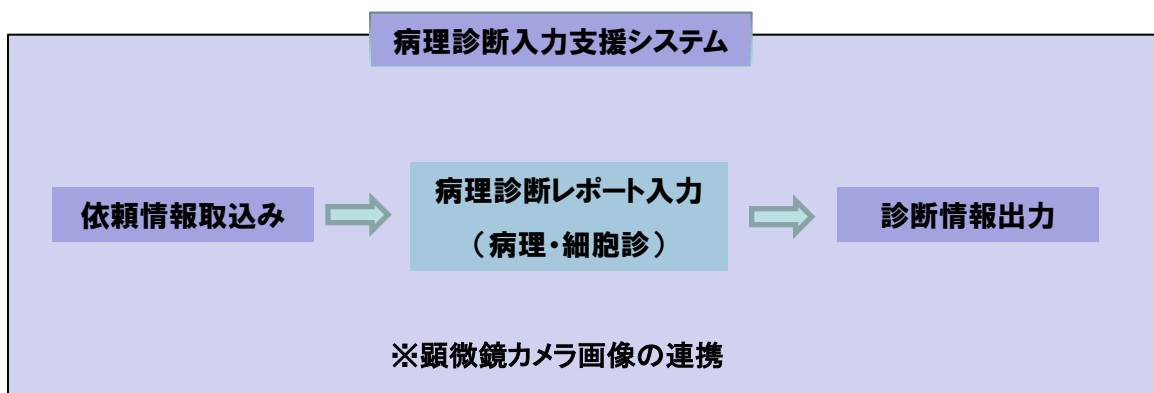
画面例

利用者にわかりやすい画面展開により、スムーズな診断入力を実現します。
診断入力は、定型フォーマットに入力するイメージです。提出資料を自動的に作成します。



システム概要図

病理診断入力支援システムは、診断入力に特化し、提出に必要な資料を一括管理します。
また、外部連携機能を標準搭載しています。



システム構成例

病理診断入力で活用できるスタンドアロン版システムをご提供します。



※システムの構成には
含まれません

動作環境(パソコン)

CPU	Core i5 3.4GHz以上
メモリ	4GB以上
ディスプレイ	1024×768ドット以上
OS	Windows10

パッケージライセンスについて
1パッケージにつき、1ライセンスとなります。